

# 中美研会報 No. 146

2022.3.1 中越美術教育研究会 事務局/長岡市豊詰町227 長岡市立上組小学校 〒940-1142 ☎(0258)22-0959 印刷/㈱中央印刷

## 今年度の活動を振り返って

中越美術教育研究会 会長  
目黒 由美



「学校をアートで盛り上げよう」。今年度、当研究会が開催した夏季研修会に掲げたテーマです。

昨年度、新型コロナウイルス感染症という経験のない状況に翻弄されながらも、図工・美術教育の振興のために、当研究会会員の総意と尽力をもって、新しい形を模索しながら活動を進めてまいりました。そして、令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない状況で、望むようには事業が進まないことを心しながらも、昨年度の実績を踏まえ、図工・美術教育の推進役を果たそうという意気込みをもって取り組みました。

アートには、生きる力を培う多様な可能性、さらに今日蔓延する閉塞感を打開する力もあると信じ、研究部、美術振興部（展覧会委員会、広報委員会）、教職員展部がそれぞれ真摯に取り組んだ内容は、多くの人の記憶に残る充実した活動であったと自負しております。

8月に開催した「夏季研修会」においては、県内の保幼・小・中・特別支援学校、行政関係者と、幅広い校種の100名近い参加者が集いました。研究部は、新学習指導要領が目指す新しい時代に求められる資質・能力を育むための研修内容を提供しようと、アートのもつ力を追究し、実際の制作活動を通して学び合う場を創り出しました。参加者自身がアートの魅力に心を満たされるとともに、授業や造形活動の幅を広げる新たな視点をもつことができました。

11月から12月にかけて、「中越教育美術展審査会」を行いました。県内各地からの応募作品約2万2千点を、第1次審査会、第2次審査会を設け、時間をかけて丁寧に審査いたしました。作品の向こうには、表現することの面白さを存分に味わっている姿、試行錯誤しながら自分の表現方法を見つけ

出そうとする姿、自身の内面を見つめ、想像を広げることを楽しむ姿等、それぞれに子どもたちの思い、様子がうかがえました。作品を囲んで、会員相互、さらに2次審査にあたっていただいた大学教授の皆様と議論し、子どもたちのもつ可能性と、授業の在り方等について、研修を深めることができました。

1月には、昨年度は中止をせざるを得なかった受賞作品の展覧会を開催しました。個性豊かに躍動感あふれる作品を前に、和やかな光景が生み出されました。魅力ある作品との出会いに、創作意欲が高まったという声を、児童生徒、さらには一般市民の方からも聞くことができました。展覧会の意義を改めて実感いたしました。

2月には、「教職員美術展2022」を開催する予定でしたが、残念ながら感染が広がっている状況から判断し、中止いたしました。すでに、ご退職された皆様や小・中・高の教職員の方々の力作62点を展示する準備が整っておりました。毎年楽しみにしてられるという一般市民の方から、残念であるというお電話もいただきました。それぞれの美術への思いを絶やすことなく、ぜひ来年度の開催へとつながるよう計画を進めてまいります。

3月には、「中越教育美術展作品集 第31集」を刊行し、この「会報」を発行しました。

美術文化は、豊かな時間を生み出すものです。今後も、感動体験を積み重ね、新たなものを創り出す喜びに浸れる美術教育の実現を目指していきたいと考えております。

会員の皆様のご協力のお陰で、図工・美術教育の発展につながる充実した取組ができましたことに、心からお礼申し上げます。

事業の開催にあたっては、新潟県教育委員会や長岡市教育委員会からご後援をいただき、また新潟日报社やケーブルテレビNCT、新潟県教職員厚生財団、日本教育公務員弘済会新潟支部から多大なご援助をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

## 令和3年度 中越美術教育研究会 事業内容

### ●第1回 理事会

・令和3年5月26日(水) 上組小学校  
会務決算報告・予算事業計画審議等

### ●研究部会

・令和3年6月8日(火) 上組小学校  
夏季研修会事前準備

### ●「第54回 夏季研修会」

・令和3年8月2日(月)  
見附市葛巻地区ふるさとセンター  
・参加者97名

### ●第1回 美術振興部会

(中美展委員会・広報委員会)  
・令和3年9月3日(金) 上組小学校  
審査会計画・作品集・会報原稿依頼等

### ●教職員美術展 第1回 実行委員会

・令和3年9月10日(金) 上組小学校  
美術展計画

### ●中美展一次審査会

・令和3年11月26日(金) 上組小学校  
審査員33名

### ●中美展二次審査会

・令和3年12月3日(金) 上組小学校  
上越教育大学 教授 松本 健義 様  
新潟大学 教授 丹治 嘉彦 様  
上越教育大学 教授 五十嵐史帆 様

### ●教職員美術展 第2回 実行委員会

・令和3年12月3日(金) 上組小学校  
教美展案内発送等

### ●第2回 中美展委員会

・令和3年12月3日(金) 上組小学校  
作品写真集計画

### ●第2回 広報委員会

・令和3年12月3日(金) 上組小学校  
中美作品集計画

### ●「第57回 新潟県中越教育美術展」

・会期 令和4年1月13日(水)～16日(日)  
長岡市美術センター  
・特別賞授賞式、作品解説会は感染症拡大防止の観点から中止

### ●「教職員美術展2022～第27回～」

・感染症拡大防止の観点から中止

### ●第3回 広報委員会

・令和4年2月17日(水) 上組小学校  
中美作品集の校正

### ●第2回 理事会 (書面)

・令和4年2月24日(水) (上組小学校)  
各事業の反省と次年度への提言

### ●「第57回 新潟県中越教育美術展・作品集」刊行

・作品集 第31集 発行  
・中美研会報146号 発行

## 第54回 夏季研修会報告

## 「学校をアートの力で盛り上げよう」

研究部長 魚沼市立須原小学校 佐藤 昌弘



【講師】 研究部 齊藤 博文 (見附・西中学校)

【日時】 令和3年8月2日(月) 14:00～16:00

【会場】 見附市 葛巻地区ふるさとセンター

【参加者】 県内の小学校より59名 同中学校より18名 同特別支援学校より12名 同幼稚園・保育園より6名  
同行政(県立近代美術館)より2名 合計97名

## 【研修内容】

今年度の夏季研修会は「学校をアートの力で盛り上げよう」をテーマに掲げ、子どもが協働でつくる題材2種類を提案しました。コロナ禍の学校の中で美術教育ができることは何だろうか？新学習指導要領の中で美術教育が目指すものは何だろうか？そのために中美研が提供できる研修はどんなものか？研修内容を決定する際に私たちが考えたことはアートの力を生かせる研修でした。今年度は特にアートのもつ3つの力に着目してみました。

1つ目の力は「美しさ」です。表現の美しさは一人一人のつくる喜びを満たしてくれます。身の回りに働きかける造形活動は、環境を素敵につくり変え、生活を潤してくれます。

2つ目の力は「協働」です。自分の見方・考え方を働かせて表現することは大事ですが、一人一人のよさを生かした協働によって、新しい美しさを生み出すことも可能となります。また、一緒に取り組む仲間が増えるほど盛り上がり、グループや学級など、集団の一体感を生みます。

3つ目の力は「意外性」です。身の回りの材料や用具から、思いもかけない素敵な表現が生み出されることがあります。意外性をもっとやってみたいという、子どもの意欲につながります。1本のペン、1枚の紙がダイナミックに変身する意外さは、まさにアートの力です。

本研修会は、アートの力を感じることでできる題材を通して、子どもと同じように制作の楽しさを味わってもらい、改めて美術教育のよさや力を感じてもらいたいという願いのもとで実施いたしました。

## 【題材1：ゼンタングル】

黒いサインペン1本で、小さな模様を繰り返し、描き広げていきます。今回は16人で1枚の絵を分割して制作しました。つなげていくとモノクロの名画が出来上がります。

## 【題材2：ジャイアントフラワー】

A4コピー用紙20枚をハサミで切ったり糊で繋ぎ合わせたりして、直径60cmの薔薇の花をつくります。制作に必要な時間は1時間程度で、みんなで作ったものをたくさん並べると豪華な花園ができあがります。学校行事を素敵に飾ることが可能です。

## 【研修の様子】

今年度もコロナ禍にあり、共同制作を楽しむことが難しい日々が続いていましたが、この方法であれば達成感と感動があり、個人の努力も報われます。技能は問われませんが工夫のし甲斐があり、個人の役割が全体に生きる協働的な活動を参加者に実感してもらうことができました。参加者からは、「学校に展示することで空間が華やかになりそうだ。」「どの子どもも楽しく集中して制作できそうだ。」など、授業への活用に関する感想や、「実技研修は、制作時に子どもがどんな気持ちになるのか体験できてよい。」「久しぶりに制作に没頭する喜びを味わうことができた。」など、授業者としての視点の深まりや広がりに関する感想を寄せていただきました。

研修会講師は昨年に引き続き、西中学校の齊藤博文先生から引き受けていただきました。昨年度の研修会で参考作品として見せていただいたゼンタングル。多くの参加者がその表現の魅力を感じていました。今回、題材の一つとして取り上げていただき、協働で制作する楽しさを感じることができました。

今回、想定以上の参加者があり、当初予定していた会場を急遽変更することとなりました。その際、葛巻小学校の高橋豊校長先生から、併設する葛巻公民館を紹介していただき大変助かりました。素晴らしい環境の中で研修を行えたことに深く感謝いたします。



## コミュニケーションツールとしての美術

見附市立西中学校 齊藤 博文



今年度の中美研修会は、8月2日(月)の午後に見附市葛巻地区ふるさとセンターにて実施しました。当初は昨年と同じく見附市立西中学校で行おうと計画しましたが、ほぼ100名の参加者となり、より広い会場に急遽変更しました。御協力いただいた葛巻地区公民館と葛巻小学校の皆様感謝申し上げます。

題材は欲張って二つ取り組みました。一つ目は、昨年研修で紹介した「アートカード」の応用実践例の「ゼンタングルによる名画の再現」です。

名画作品を白黒に分解して、輪郭を写し取り、黒い部分にゼンタングルを施すものです。研修会ではB5コピー紙16枚分で一つの作品をつくりました(16人で一つの作品をつくったということ)。本当はワイワイと楽しみながら模様を埋めていくのですが、なにせ時間がなく、大急ぎでの制作となり申し訳ありませんでした。また、模様を描いている時は「いったい私は何をやっていて、描いた模様はどうなるのだろう？」といぶかしんだ方も多かったでしょう。しかし、でき上がったものを貼り合わせ、一枚の大きな作品になったのが並ぶと、参加者の皆さんから「おおっ」「すごい」と感嘆の声が上がり、バシバシ写真を撮る姿が見られました。

大人の事情でゼンタングルのパターン集は差し上げられませんでした。ゼンタングルの技法はいろいろな良い本が出ていますので調べてみてください。私が使っているのは、**・はじめてのゼンタングル さとう いずみ** **・描き込んで楽しむゼンタングル 佐藤 心美** の2冊です。

この方法を応用すると、①児童・生徒の写真を撮って白黒に分解し、ゼンタングルをほどこして自画像的な作品にする。②卒業担任の写真を同様にゼンタングルにし(クラス全員で描いて)、卒業式に飾って泣かせる。③自分で好きな輪郭線を引き、ゼンタングルを入れて抽象画風にする。もちろんゼンタングルは白黒だけでなく、色彩を工夫する。というようなこともできます。



研修題材の2番目は「ジャイアントフラワー」づくりです。A4コピー用紙と糊と少しの厚紙だけで、直径60cmくらいの大迫力の花ができます。生徒がつくると2人組で1時間半くらいかかるのですが、さすが図工・美術専門の大人ですね。1人だけで約40分ででき上がりました。時間が進むにつれ、会場が大きな花だらけになり、何か不思議な空間になりました。

花にはいろいろなパターンがあり、詳しく知りたい方は下のように検索してYouTubeを見てください。



コピー用紙チャレンジ ジャイアントフラワー x 🔍 検索

ウェブ 画像 動画 知恵袋 地図 リアルタイム ニュース 一覧 ツール

約152,000件 1ページ目

<https://www.petaldesign.jp/2020/04/27/copying-paper-challenge/>

**コピー用紙でつくるジャイアントペーパーフラワー - PET...**

自粛中に家にあるもので#ジャイアントペーパーフラワーを作る#家で映かそうプロジェクトスタートするよ。まず最初は#コピー用紙チャレンジ 再生時間: 11:59

この花は、学校のいろいろな装飾に応用できます。私の学校では約50個の大きな花で壁面をつくり、卒業と入学をお祝いしました。全員が足を止めて見入り、学校がアートで明るくなった気がしました。研修に参加しなかった方にもつくり方の説明書を差し上げます。欲しい方は御連絡ください。

さて、今回の研修で伝えたかったのは、図工・美術の学習の新しい可能性です。2つの題材ともに、児童・生徒がつくる時には教え合いや話し合いが必要で、授業をそのように仕組みなくても、すぐれたコミュニケーションツールとなります。このような題材を開発し、共有していくのも中美の役割であると考えます。そのような題材をお持ちの方はぜひ情報を教えてください。

# 中越教職員美術展2022 ～第27回～【コロナ禍のため中止】

- 会期／令和4年2月2日(水)～6日(日)
- 会場／長岡市美術センター（長岡市立中央図書館2階）
- 主催／新潟県中越美術教育研究会

- 後援／長岡市教育委員会 新潟日報社  
一般財団法人 新潟県教職員厚生財団  
公益財団法人 日本教育公務員弘済会新潟支部

No.	題名	出品者
1	寒ざらし妙高	F50 池上 秀敏 元教職員
2	福島潟遠望	F10 結城 和廣 元教職員
3	子どもの頃	F0 石川 吉郎 元教職員
4	冬	F100 藤本 市郎 刈羽・刈羽中
5	雨降るーいそげ我家へ	90×110 水落 裕子 元教職員
6	狐の夜祭りー高柳町	78×89 中嶋 均 元教職員
7	魚野川河岸早春	F50 丸岡 昭子 長岡・太田中
8	魚野川河岸待春	F50 阿部 勝則 十日町総合高校
9	時の狭間 2022-1	51×51 北村 和則 中越高校
10	時の狭間 2022-2	F20 高井 将行 新潟向陽高校
11	くつろぎの時	F10 田中 幸男 小千谷西高校
12	アラセイトウの季節に	F10 中村 信 見附高校
13	夏と秋	変形40号 丸山 一夫 大手高校
14	大学生	F50 溝口 敏美 長岡高校
15	あの夏空を忘れない	F30 飯田美輝夫 近代美術館
16	東京曼荼羅	S30 五十嵐由美子 小千谷・東小千谷小
17	描く人	F100 池田 義広 附属長岡中
18	バイタル	280×140 岡本 真梨 長岡・南中
19	睡蓮／Warp	150×92 金澤 健志 近代美術館
20	Reflection／夏	72×50 小沼智恵利 ギャラリーみつけ
21	黒い静物	F20 小林 涼子 小千谷・総合支援
22	宙ーコスモスー	F50
23	習作 東山魁夷	30×42
24	プリムラ・ジュリアン	A5
25	夏の輝き	A5
26	New Year's card 2022	A4
27	春ー山本山高原よりー	F8
28	熊	B4
29	種まく人	F8
30	Night story	40×58
31	或るものⅠ	37.5×46.5
32	或るものⅡ	36.0×44.0

No.	題名	出品者
33	沢蟹	30×15
34	鯉ー点ー	30×15
35	松代の夏ーミヤマクワガター	17×12 佐藤 和輝 十日町・松代小
36	鯉ー線ー	17×12
37	ガーベラ	15×15
38	鎮魂と復興	71×41×2枚 高橋 淳一 十日町・南中
39	モフモフ	71×41×2枚
40	雨	S40 田中 大志 長岡・長岡聾
41	ジャックと豆の木	400×30 田村 敏宏 長岡・寺泊中
42	東港近くの夕日	F30 南雲 学 十日町ふれあいの丘
43	描き初め『川霧の朝』	F10 濁川 徳一 長岡・十日町小
44	描き初め『静かな朝』	F10
45	八海山 1/4 2/4	44×56 野村 宏毅 三条・第三中
46	八海山 3/4 4/4	44×56
47	白寅の佇み	A3 三上 祥司 元教職員
48	糸ー丹地陽子画集よりー	A5 村山 裕之 十日町・中里中
49	ゆめ3	A5 目黒 由美 長岡・上組小
50	雪待ちの林	A5 鰐淵紀美子 小千谷・東山小
51	紡ぐ	43.5×58.5 石黒 裕子 元教職員
52	思い出	20×37×40 堀田 正 北陸学園
53	移り行く面ー19ーⅠ	25×25×190 霜島 健二 元 高校教職員
54	移り行く面ー21ーⅡ	147×25×190
55	東大寺戒壇堂増長天像(模刻)	44×44×122 立川 厚生 ギャラリーみつけ
56	夢	65×50×30
57	月夜の散歩	20×28×10 齊藤 博文 見附・西中
58	Silent night	小品
59	瞳若Ⅰ	100×100×10 中村富美子 長岡・小国中
60	瞳若Ⅱ	100×100×10
61	七宝焼きアクセサリー	小品 村山真由美 南魚・浦佐小

## 『中越教職員美術展2022』について

中越教職員美術展 実行委員長 村山 裕之



会期：令和4年2月2日(水)～6日(日)

会場：長岡市美術センター

新型コロナウイルス感染症の第6波は、全国に驚異的な広がりを見せ、新潟県でも「まん延防止措置」が講じられました。今回は特に、子供たちへの感染が広がり、中越地域の学校も緊張感が走りました。

この状況の中、展示会場である長岡市美術センター（中央図書館2F）は休館しませんでした。感染状況が広がる中、出品者や役員が各学校から一同に集まることは、この時期としてはリスクが高いと判断し、「展覧会中止」という苦渋の決断をいたしました。

今回の応募者数は39名で出品数は62作品でありました。ここに至るまでに、会期に合わせて作品を制作されたり準備されたり、ご依頼に応じていただいた方々には、感謝を申し上げますと共に、ご迷惑をおかけし大変申し訳なく思っております。

図工・美術を指導している教職員や現役または退職後も芸術表現活動に熱意をもって取り組んでおられる方々にとつ

て、本美術展は貴重な作品展示の場であり、交流の場でもあります。何とか継続していくつもりでしたが、有効な対応策が見つかりませんでした。残念でしたが、今回の作品は来年度に向けて温めておいていただくことに致します。

しかし、来年度は会場である図書館2Fの美術センターが改修工事に入るため、現在、代替の会場を探している最中です。適切な時期に適切な規模の会場が見つからないと来年もピンチです。この苦境を乗り越えるべく、今から奔走しています。

今年度は展覧会こそ開催できませんでしたが、想いや情熱は絶やしません。せっかく続けてきた図工美術に係る教職員の想いや情熱というバトンをつないでいきたいと思えます。また、毎年、案内ハガキを楽しみにしている一般の方々のためにも頑張りたいと心を新たに展覧会でした。

最後に、この大変な時期に出品に携わっていただいた皆様、事務局のご尽力並びに葵屋画材店様からの多大なるご協力に、心から御礼申し上げます。来年度もよろしくお願い致します。